內鄉村報

天法人則ニ從順ナルベシ

予は、去る八月二十日、即ち舊盆の十五日に、濱崎副所長宅を訪問、『佛前に回向せんものと、壇上を見上ぐれば、百折不撓居士（へこたれぬこじと假名付）といふ、まだ木の香新しい位牌が、かざられてあるので、少しく妙な感にうたれ、一たいこの位牌は？とおたづねしたら、氏はほゝ笑みながら、從來幾度か死線を越えて、今日に到れる大要を述べ、最後に水戸義公に、引導を渡された心事を語られたのである。氏と予との交遊は、こゝに十有五年にもなるが、氏の自在無礙なる人柄の、よつて來たる因由を、之によつて始めて知る事が、出來た樣な感にうたれたのであつた。よつて特に氏に乞ふて、此一文を草していたゝいて、氏とは其關係淺からぬ、我三千二百の讀者諸君にも之を頒つ事としたのである。其處に何ものかを得られる事を、信じて疑はぬ（民惠）

厄年を危く經過して【一】

濱崎善三郎

プレミアム

私共の乘つた自動車が、汽車と衝突して、皆さんに大變な御心配をかけてからもう滿二年半を過ぎました今でも自分の命のあるのが夢じやないかと思はれる事が時々あります。

私が此會社に就職したばかりのとき、高濱工學士と獨り者同志で、一軒の社宅を借受け、一年位の間、女中を雇つて暮したことがありました。その隣りが當時綴採炭係長の永峰さんの御宅で、何彼と御世話になりました、當時同家には四人の可愛いお孃さんがあつておんぶしたり、だつこしたり、それは仲善く遊んだものでした。其後十幾年の歲月は流れて、永峰さんは亡くなり、お孃さん達はそれぞれきれいに成長されました。

それは昭和九年の夏の頃であつた。永峰未亡人は二度も私宅に來られ、二番目のお孃さんの「婿を是非心配せよ、どうでもこうでも濱崎さんに世話して貰ふよりほかない」との懇請がありそのことがあつて二日目に未亡人は急病で逝くなられました。私は媒酌の經驗もなく不得手とは思つたが、是はどうでも心配してあげざるを得ない、ぞしてこの可憐な奥さんの靈を慰めてあげねばならぬと、心に誓つたわけでありました。

それは亡き奥さんの里を繼ぐべく、婿を迎へるといふのであり、骨は折れたが亡靈の加護もあつてか、見事緣談はとゝのひ、擧式もあと二三日と、いふところまでこぎつけました。忘れる事も出來ない昭和十年二月十日、明日は紀元節といふ日の夕刻、式場はどうか準備はどうかと、此の式に關係ある社友二人と、式場なる、湯本の山形屋に出かけ、行屆いた準備に滿足しながら、晩餐を共にして、午後十時頃歸途に就くべく三人は自動車の人となりましたが、私は日頃の激務の疲勞と安心とのためか、自動車の中でウトウトしてゐたらしい、どんな事故が起つたか、それから先私は夢中で、何も判らず……

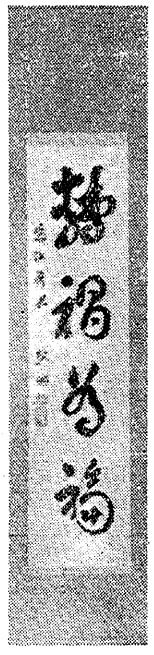
……判つたときは病院のベットの上に横はつてゐました。

後で聞けば自動車が藤棚の踏切に差掛つた折も折、こゝの下り勾配を驀進して來た貨物列車の汽罐車に、自動車はしたゝか後部を打たれ、附近にあつた枕木六七本で作つた柵を、全部薙倒して轉つてゐたといふ。社友二人は幸にも微傷ですみ、私だけは強き腦震盪を起し腰部を強打して人事不省に陷り、人手によつて車の中から引き出され、近くの診療所に運ばれて手當を受け、翌朝擔架でそこから六七町もある病院に運ばれたのも、脈膊が惡くなつてカンフル注射をされたのも、何も一切判りませんでした。

事故を生んだ魔の踏切、この踏切こそは私が平生長い間あの踏切はあぶないな誰か社友達が間違を起さねばよいが、然し間違なくては濟まない場所だ、あぶない〳〵と云ひつゞけて來た場所であつたが、その私がとう〳〵引掛つてしまつたのですからなア。されどお醫者さん方の診療、看護婦さん達のみどり、多くの人々の無限の御同情御心配の御蔭で、血一滴出さず、骨一本折らず、傷一つのこさないで、入院四十五日、完全な元のからだのそのまゝ退院出來たのは、何といふ奇蹟でありましたらう。

淺野社長からは、「濱崎の之からの命はプレミアムだ大事にせよ」と、御親切な御話があり「轉禍爲福」の御揮毫をいただきました寔に有難いことで、仰せの通り福と爲すべく、常に心掛けて居るわけであります

四十二は男の大厄といふが、私はそんな事に殆んど無關心であつたから、前厄にも本厄にも、厄拂ひ一つしません。それが四十三の後厄で、此の災難に見舞はれたのであるから、之がやつぱり定つた厄かと一應は考へさせられました――が然し厄年といふ殊更にきまつたものがある筈はない。厄は人間の隨所にひそんで



轉禍爲福　爲濱崎君　攻洞（淺野社長書）

內鄉村報の六大使命

一、政黨政派を超越して力強き民主主義を標榜す。
二、村內公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、進取和衷努力の實績を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村內の善事美行を激勵し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て國民啓導に當る

本紙掲載の廣告は大內一家の事業にして、其の社會は子孫に傳する遺言を發ぬるものなり。

本紙定價一部金五錢一ヶ年前金六圓　郵稅共金四十八錢
發行所　福島縣石城郡內郷村字宮下二
編輯兼發行人　內鄉村報社
印刷人　右全部　大內民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　平活版所

麥笛吟社

高木撫山

應召の兵よ安かれ豊の秋
子供等に流行る軍歌や礦山の秋
動員を受けてる兵ど墓參り

をると見なければなるまい私などは四十五年の過去を振り返つて見ると隨分危い目にも遭ひましたが、よくまあ命があつたもんだ、此の俺は餘程惡運の強い男だわいと痛感してをるわけであります。

舟遊

むかし昔三十年の昔、私が十三四才のある夏の日、五人の友達同志で舟遊びに出かけました。その日は極めて靜かなよい天氣であつたので、一同は岸から一浬もある小崎の岬まで行かうといふのです。

櫓の漕手は私と後藤信七郎君の二人、舟が凡そ半浬も行つたと思ふとき、思もかけぬ俄かの烈風、あれよあれよと思ふ間に、今まで疊を敷いたやうな海原は、波次第に荒立ち、舟は木の葉のやうに飜弄されて來ました。舟の舳を沖の方から岸の方に向け變へんと、私と後藤君とが懸命の努力の末やつと向け變へに成功すると、幾何もなく又元の沖の方に向けられる、四五回之を繰り返すうちに、私共はへとへとになつた。一同は不安の色濃くなり行くばかり、漕げない連中は只泣き叫ぶばかり、側で泣聲を立てられると、こちらの勇氣もにぶるので、「泣いてばかりゐないで舟板で漕げ」と叱咤したが、たかが舟板の助け位では、もうどうにもならん、舟は次第に斷末魔に赴くばかり、もはや一同天草灘の藻屑となる外はない刹那に追ひまくられて來ました。

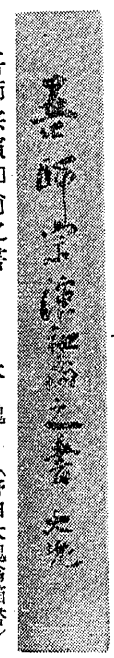
「あゝ天なる哉命なるかな舟の舳が最後に沖に向つたときしもあれや、遙か左方の沖合より一雙の小舟それは私共の舟よりも小さく、只一人の男が力漕して矢のやうに來るのが見えた。その扁舟が私共の舟に近づいた頃、私共一同は手をあげ命がけの叫聲をあげました「助けてくれ、助けてくれ」近寄つて見ると私共が顔見知りの元向の大どんでありました。強瀾怒濤の上で一本の綱は投げられ、そして「一番櫓のうまい人が此の舟に乘り移つて來なさい」との言葉が聞えました。私は飛鳥の如く飛び移つた次で大どんは「その綱をしつかり結びつけて離さんやうにしなさい、離したら最後、もう助くることは出來んからなあ」と言明した。私は大どんと二人で櫓を揃へて漕ぎながらア、此の俺はもう完全に助かつたぞと心中思ふたことでありました。三十年前のその時の光景今尚ほ眼前に彷彿たるものがあります。陸では親達が救助船を出そうと奔走手配中であつたところに、やつと無事上陸して胸をなで下した次第であります。

宗演禪師

莫妄想　爲濱崎氏　宗演書（宗演禪師書）

中學を出て、五高を經て東大に入り、その卒業期に於ては、私の人間としての未熟不完全から來たくだらぬ煩悶懊惱に苦しみ惱んだ末死ぬか坊さんにでもなるからは懇々極めて親切な御說話がありました。御話を聽いて私は永い眠りからパツト眼が醒めたやうに感じました。その時の御風丰も御言葉の片言雙語も、今に忘れて居りません。

そして初對面の一介の書生の私の爲に、「莫妄想」の御揮毫をして下さつたのでありまして、今日まで私の命のあるのは偏に同師の御蔭であるとつくづく考へてをるのであります。



吾師宗演和尚之書　大塊（野田大魂翁箱書）

吾師宗演和尚之書

より外はない、然しまあ座禪でもして見ようと、大正六年の夏休中、鎌倉の圓覺寺時宗公の廟のある佛日庵で三ケ月を過しました。忘れもせぬ七月二十七日、東慶寺に釋宗演禪師を訪ねてそれはほんとうにその時は決死の覺悟で宗演禪師にぶつつかつて見ました。禪師の御指導で、七十日位も病院生活を送つたわけでありますが夏の鎌倉で拾つたつもりの命でありましたから、肺尖カタル、肺患と宣告されてもビクともせず、苦にもやまず、悠々としてゐたもんですから、お醫者も看護婦達も、此の病院が開けてから同じ病人が數知れず入院したが、あんたのやうに病氣に對して平氣で、無關心なものは、まだ見たことはない、大膽と云ふか無神經と云ふか、全く驚く外はないと褒められたり、けなされたりした事でありました

退院後東京に歸つてから念の爲駿河台の杏雲堂の佐々木秀一博士に診て貰ひましたとき、卒業試驗なんか受けると命を失ふぞと云はれましたが、今年卒業しないでは、一生卒業出來ないと思つたので、死んでも致方はないと、成績極めて不良ながら卒業してしまつたわけでした。

こんなに顏の赤黑い頑健な私に、肺病の經驗があるといふても、今ではほんとうにする人は先づありません。

（未　完）

肺患

鎌倉で座禪をした年の冬休に伊勢に旅行して暫らく滯在してゐるうち、例の神風の本場の事とて寒冒に犯されてなかなか直らず、遂には大咯血まであり、宇治山田市の赤十病院に入院さのぎ、七十日位も病院生活

矢野恒太序　大内民憲
屢郡宇之吉　著
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅八錢）
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。
我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議感ニ堪ヘズ申候云々。

發行所　日本評論社　東京市神田區三崎町三丁目
取次所　内郷村報社

海川孃の篤行と
下遠野氏の美學

呼んで、下遠野氏の希望を傳へたるに、一旦は固辭して受けなかつたが、其厚意を無にするを說い

由である。其の氏名年齡及參加日割順に擧ぐれば左の通りである。因に一行の巡行中特に感激したるは、竹

れたので、關係者一同より大に惜まれて居る。

磐
の特局映畫

一村を擧げて戰捷祈願祭

九月十一日午後一時より家政女學校に於て、中央正面に村内四村社祭神を齋き祀る莊嚴なる靈壇を設け、山海の神饌を供へ

一同着席
次に修祓
次に降神祭詞
次に神饌を供す
次に齋主祝詞を奏上す
次に村長祭文を奏上す
（別項掲載）
次に齋主玉串を献る
次に村長玉串を献る
次に家族及各種團体玉串を献る
次に村長挨拶
次に昇神祭詞
次に退下

の順序に依り、一村を擧げての戰捷祈願祭を擧行した村内あらゆる各種團体各炭礦代表者及出征者家族諸氏等無慮三百餘名參列し、特に出征者家族各位諸氏へは御祓及御守を贈呈した。

甲種合格者抽籤

今年度壯丁合格者に對する抽籤は八月三十一日福島公會堂に於て施行せられたが其結果左の通りである。

（括弧内番號）

歩兵　高原庄郷（一五）宮川哲成（一四）柏崎清（一三）渡邊光三（八〇）加勢川太一（一四五）杉本輝男（三三四）星野定勝（二一〇）高橋嘉男（六九）久野廣喜（二三〇）鈴木一輜重兵特務兵　前川福井（一）草野正男（二三）橋本昇（一八）久野春美（一三）

鐵道隊　渡邊要（八）

水兵　菅野憲司（一六）紺野勝重（五）

機關兵　樫村重利（三）千葉利一（四）高橋忠（七）

消防幹部會

八月二十九日午後一時より村會議事堂に開催、左記の件を協議決定せり。

一、消防組員出征の件
旗一旒及餞別を贈呈し部員一同歡送すること
二、消防組員戰死の場合の件
幹部一同にて花輪及御悔みを贈呈すること
三、幹部辞職願の件
各部一名宛交渉委員を擧げ留任を勸告すること

戰捷祈願祭文

謹て社住吉神社　西宮神社　八坂神社　常盤神社の大前に白す
滿洲の曠野に不眠不休の奮闘を續けつゝある將兵
又支那事變開發以來既に幾十日
我陸海軍將兵は炎暑に堪へ寒兵を冒し
彈雨を冒し各地に連勝の偉功を樹て
以て衆敵に對し勇戰奮闘
國威を中外に發揚す是れ固より御稜威の然らしむる所にして國民の齊しく感激して己まざる所なり
帝國の前途亦容易ならざるものあり
冥鑑を垂れ給ひて徹底的に支那を膺懲し
克服して終局の目的を達成せんことを
昭和十二年九月十一日

石城郡内郷村長　（從五位勲四等功五級）　沼田濱之助

分會評議員會

村在郷軍人分會では、支那事變擴大に依る充員召集增加に鑑み、歡送方法に付き八月二十七日午後七時より武德殿に於て評議員會を開催し、左記の通り決定せり

一、綴驛前に仮事務所を設置入營に必要なる事項を指示すること。
二、分會員日割を以て驛頭に歡送並に一般歡送者の整理に任ずること。
尚九月二日再會、歡送の完璧を期する爲め、左記の件を協議決定せり。
一、出征軍人の出發日時を速かに全會長迄通知し連絡統制を取ること。
二、綴驛前に雜踏を防ぐ爲め標札を樹立し、各種團体及一般歡送者の位置を示すこと。
三、出征に依る全會幹部欠員は、代理を以て當ること。
四、分會員出征の場合には餞別として金一封を送ること。

◎急告

國税畑雜地租第一期の納期限は本月二十五日でありますから御忘れなく納税して下さい　（係）

十月一日より古俵並古叺檢査施行の旨、其筋より通牒ありましたから御承知下さい。尚委細は農會か各區長かについて、おたづね下さい。　（係）

愛國婦人幹部會

九月一日午後一時より村會議事堂に於て開催、左記の件協議決定せり。

一、出征將兵送迎の件。
二、駐滿將兵及出征將兵の遺家族の慰問並救濟の件
三、軍人遺家族生活扶助資金募集の件
1 一口凡そ十錢以上として會員は勿論會員外よりも廣く募集すること
2 募集したる金額を支部及分會に於て折半す
3 九月末日迄に完了する事
4 壹圓以上の寄附者に對しては支部より謝狀を呈す
四、戰死者を生じたる場合の件
五、會員募集の件
六、駐滿將兵及出征將兵慰問の件
七、襷使用の件
八、希望事項
九、各幹事及班長の推薦

出動軍人家族扶助金募集

既報の通り、出動軍人家族扶助金募集を開始するや、應募者は陸續として現われ好結果を得つゝある。其決定したる大字を左に錄す。而して其名簿は追つて特に號外を以て報告する豫定である。

三三七圓一〇錢
白水大越治助外一一七名
一八〇圓八五錢
内町鈴木庄太郎外一三〇名
三一三圓四五錢
上綴金澤慶一外二二四名
七四圓五〇錢
下綴山崎英雄外五一名
一六五圓四〇錢
高坂根本保吉外一〇六名
六三圓二〇錢
御臺境草野末吉外五九名
一四三圓四五錢
佐藤文雄外六名　第一校
二八圓五二錢
堀一郎外二五名　第二校
二八圓六錢
鈴木重顯外二五名　第三校
七圓
佐川文雄外五名　家政校

方面委員會

九月三日午後一時より、村會議事堂に開催、左記の件を協議せり。

一、方面委員任命に關する件新任者金澤、宮下兩委員の擔任區域を決定せり

二、出征兵士遺家族、生活調査並に慰籍の件。

出征軍人遺家族の軍事扶助該當者調査に關する件

外三件。

三、取扱上の打合せ。

各種議員選擧資格者調査

當村では九月十五日現在を以て衆議院議員及村會議員の選擧有權者を調査し、選擧人名簿を調製致します。此調査に洩れると投票が出來ませんから御注意を願ひます。

各區長及磐城炭礦勢務課では戸別に調査致しますが若し九月二十四日迄に各戸へ調査に伺ひませんでしたら左記に該當する方は居住地の區長、磐城炭礦關係の方は、同勢務課へ至急申告して下さい。

一、生年月日、【イ】衆議院議員選擧資格者二月二十一日以前生れの者。【ロ】村會議員選擧資格者（縣會議員にも適用）大正元年十二月二十六日以前生れの者。

二、本村内に居住年月日、【イ】衆議院議員選擧資格者昭和十二年三月十六日以前より引續き本村内に居住する者（本年九月十五日まで本村内に居住六ヶ月以上）【ロ】村會議員選擧資格者、昭和十年九月十六日以前より引續き本村内に居住する者（本年九月十五日まで本村に居住二ヶ年以上）

愛婦分會の活躍

愛國婦人會本村分會に於ては、左の趣意書に基き、資金の募集を開始した。

近く日支兩軍の全面的衝突を見んとし、又黑龍江の波も靜かでない樣な事態に立ち至りました以上、御同樣一層銃後の護りに奉公の誠を捧げたいと念願するものであります。今や當村より出征された方々は、〇〇〇名を超いて居ります。將來も亦〇〇〇名を征途に送らなければならないことて御座いませう。愛國婦人會は本來の使命に基き、出征軍人遺家族の慰問、並に御氣の毒なる家庭に對して扶助する爲め、寄附金の募集を致し度いと思ひますから、何卒御援助を願ひます。

尙一口を十錢以上とし、募集金額の半額は、支部より の申越しに依り支部に差上げることになつて居ります。

愛國婦人會
内郷分會長　沼田ひとし

出でよ人物（一）

内郷第三校　大橋貞勝

一、大内郷に何故に人物出でざるか。

是は私の多年縣案の關心問題であつて、私は之に對して現在次の樣な人物出現の愚則を樹てた。

一、環境　二、傳統　三、指導者

の三ケ條が其の要素であつて、之は歷史性より當然歸納されねばならぬ想定であるとの見解を持つものである。

拙い解剖を試みるならば内郷には磐城文化開發の宗教的存在として德尼御前と軍神の隨一たる立志傳中の士大越兼吉中佐あり。

中佐の偉大なることは最近生家が時別保護建造物に指定された事によつて立証されるのであらう。私は「師の價値は其の弟子を見るに如かず」が教師價値測定の第一原則であることをいよ〳〵痛感してゐる。中佐の幼年學校（仙臺）生徒監たりし時代の教へ子に今を時めく陸相候補板垣閣下、滿洲國の双璧土肥原閣下其の他出頭の士は枚擧に暇がない。

二、此の誇るべき傳統を有する本村は黑ダイヤ景氣が拍車をかけ膨脹又膨脹人口に於て近代都市、平市を凌ぎ全國屈指の大村であり、富に於て亦然り。

此の如き物的條件に於て優越せる本村の人物如何。組織如何。而して其の成績如何。

量的の膨脹に次ぐに質的の躍進あらば、金題の必要もなきに如何せん。偉材出ず最近の現象として郡指導機關第二第三流の町村に占められるは之如何に。勿論各小學校の保護者の府縣別圖表の示す如く全國的の集合世帶であつて正に東京の縮圖の如き觀あり、離合集散常なく、黑ダイヤ景氣の永續性の見透しも容易につかず、之に加ふるに小錢を得るに便利なるは、之が消費し易き惡環境を產む。その結果的確なる指導原理を持つ

農家暦

◎九月　長月

（下旬）葱の中耕土寄、大根白菜の追肥中耕、二年子亀戸大根播種夏甘藍の追肥、秋植草苑球根の植込み稻架を作る。梨收穫荷送り出荷、桑園の除草。

◎十月　收穫の月

（上旬）蕪豆及小松菜の下種、大小豆の收穫、麥類の選種選水選冷水溫湯浸法の施行、蕗株分並植込大根及白菜類の追肥（最終）果樹の收穫終りたるもの、追肥、二毛作菜種及甘藍の移植。

（中旬）葱の土寄、蚕豆の收穫里芋の收穫、移植蠶の床種播、薯蕷の收穫、蔬菜類の害虫驅除、花類の定植及霜防止の準備、柿の收穫各種轉化栽培始む、蜀葵蓋自家用醬油の醸造

た從つて青少年の抱く理想は貧弱に、立身出世をはき違ひて實力の堅持、即ち素質の完成のために眞劍なる努力もせずして苟且偷安其の日暮的となる。

此の如き村の統制はむづかしく指導亦容易ならぬものあらう。

三、然し人物輩出の法則に相背致する環境よりは人物出でざるか、も一歩進めて此の如き村の更正は不可能なる乎、否々　私の「出でよ人物」の念願の理由茲にあり「眞に少壯有爲の人材出でよ」と叫ぶのである。

へとへとになつた。一同は不安の色濃くなり行くばかり、漕げない連中は只泣き叫ぶばかり、側で泣聲を立

後、もう助くることは出來んからなあ」と言明した。私は大どんと二人で櫓を揃へて漕ぎながらア、此の俺

慶寺に釋宗演禪師を訪ねてそれはほんとうにその時は決死の覺悟で宗演禪師にぶつかつて見ました。禪師

されてなかなか直らず、遂には大喀血まであり、宇治山田市の赤十病院に入院さ

ざ、七十日位も病院生活

といふても、今ではほんとうにする人は先づありません。

（未　完）

矢野恒太序　大內民惠著
服部宇之吉序
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵税六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大內案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議感ニ堪ヘザレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　內鄉村報社

海川孃の篤行と下遠野氏の美學

金坂通りの古物商下遠野福太郎氏は、記者を途上に要して、私は毎晩宮澤の從業員風呂に行くのですが、いつも一人の若い娘さんが、年寄つたお父さんを、自ら背負ふて來て、風呂に入れ眞心こめてしかも手際よく全身を洗ふてやるは勿論、顏を剃つてやつたり、口をそゝがせ、水を飲ませるといふ樣に、到れり盡せりなのです。私は何處の人だかわからないが、いづも之を見て、また若いのに感心なと涙ぐまれるのです。先生一つ御手數でも御調査の上之はほんの僅かで失禮ではあるが、私の微衷を其お父さんの御見舞として、お届け下さいませんかと、金一封を差出したのである。記者は早速調査の結果、其人は宮澤の社宅に居住する、海川忠助氏（七三）の息女平市第二小學校の看護婦であるキクノさんであつた事がわかつたのである。

同孃は本村第三小學校を優等で卒業、磐城高女に入學したのであるが、家事の都合で退學、平市南町の產婆看護婦學校に貸費生として入學、在學中に其賞格をとり、派出婦となつて其義務を果し、次いで回春園に奉職したり、獨立して派出婦となつたりして、母亡き後を兄夫妻と協力して、老父によく仕へ、數多き弟妹の致養に精進し、殊に末妹をして、自分が會て涙を呑んで、入學早々退學した、磐城高女を立派に卒業させた如きは、眞に嘆稱に値へするもので、派出婦在務中も其取扱ひたる病人より遺產の一部を、遺言によつて寄贈せられた事などもあつたといふ篤行家なのである。記者は取り敢へず、同孃を呼んで、下遠野氏の希望を傳へたるに、一旦は固辭して受けなかつたが、其厚意を無にすべからざるを說いたら、直ちに飜意、欣然之をうけ、改めて其全部を、出征軍人慰問費に献納するとの事であつた。

八十翁も奮起
遍照講の活躍

眞光院住職方面委員松村智清師の率ゆる、遍照講內鄉第一支部より、國防献金として、八十九圓余を村役場を經由して、其筋に奉納した事は、既報の通りであるが、其淨財を得る爲めには遠藤菅野柴田の幹部は勿論七十、八十の翁媼を始め、十九人の講員が、炎天を犯して、善く村內を詠歌巡行して、喜捨を仰ぎたるものである。其の氏名年齡は參加日割順に擧ぐれば左の通りである。因に一行の巡行中特に感激したるは、竹の內居住の半島人同胞が、進んで献金した事であつたとの事である。

御詠歌巡行の姿
前列は幹部と松村師

遠藤米吉（八〇）草野國藏（六三）柴田久好（五〇）草野ヤス（七四）伊藤スイ（六九）四家チヨ（五五）伊藤源吉（七二）高木ツヨ（六三）善方三五郎（五六）吉田ツネ（四八）玄葉サノ（五七）齋藤ハツ（四九）渡邊チヨノ（五三）四家マツ（六九）竹內午太郎（八〇）四家トミ（五一）村上トメ（五五）中澤イシ（　）渡邊新次郎（　）

會員二百名募集
（昭和十二年九月より）

◇一家を更生せんとする戶主長男は來れ
◇一身を立てんとする二男三男は來れ
◇詳細は申込み次第『七年會案內』を送る

磐城炭礦從業員寄宿舍
大正十二年創立　七年會
福島縣石城郡內鄉村字宮澤（常磐線綴驛）

筒井磐雄氏

早大を出て、磐炭に奉職する事二十年、採炭に、事務に、將た山許に、本社に、縱橫敏腕を振ひ、其素樸にして眞摯なる人格に對して上下の信賴特に篤く、大に前途を囑望されて居つたのであるが、父翁の經營せらるゝ、重內炭礦に奉仕應援する爲めに、此程退職せられたので、關係者一同より大に惜まれて居る。

磐炭の時局映畫

磐城炭礦では、左の日割で支那事變並に全山作業現狀等に關する映畫會を開催。從業員及一般に無料で觀覽に供した。

△十三日午後七時から第三小學校々庭。△十四日同金坂運動場。△十五日同綴山神社境內。

御殿少年團の一泊行軍

御殿少年團では、八月十五日早朝、曉々たる行進喇叭に歩調を揃へて出發、平市を通過、沼の內辨天に賽し薄磯海岸中島屋旅館を宿舍と定め、海岸にキャンプ村を建設、宣言、國旗揭揚、國歌奉唱、自治機關を設置（村長、山野副團長、助役收入役、安島參謀、衞生區長、志賀班長、消防組頭、三坂班長、產業組合長、大谷次長）し、それ〴〵時間を定めて、海水浴、遊戲、營火等を行つて一泊、翌十六日も同樣の行事を繰返し併せて附近の水陸見學を行ひ、夕刻一同無事歸山した

（安島生報——抄錄）

◎本紙賛助金寄贈芳名
金貳圓　高野　高萩章
金貳圓　平市　佐藤吉之進

開拓記錄（三）

北海道十勝國上川郡清水町　清水山莊　大内　きみ一郎

九日附お手紙と小包とは共にいたゞきました。又重ねて御到來物のおいしそうな漬物を、匂ひをかまれた丈で、お送り下さつた由、一同鶴首して居ります。こゝ二日許り、降つたりやんだりの天氣で、氣をもんで居りますが、例年よりは暖かなので喜んで居ります。實行組合の消毒器は、部落中で使用するので、思ふ樣に使はれませんので、思ひ切つて二十四圓のを、札幌へ註文したのでしたが、送つた通知が來て居りますので、今日一郎がとりに行つて來るといひますから、其序に今朝熟れた丈の莓を、全部もぎとつてお送りいたします。それこそこちらでも匂ひをかんだ丈けです。これでお漬物と相子となるわけです……。二三日内に又もぎとり神佛に供へて二郎に送らうと存じて居ります。追つて又たき子の方へも、實は少々でも、莓の苗に十分土をつけて送つてやらうと思つて居ります。そうすれば來年は二兒が食べるのによいと思ひますから。今年は大に之をふやすべく、傾斜地をおこすつもりで居ります。此莓は先年荒木さんからいたゞいた、頗る品種のよいものなのです。西瓜南瓜がなりましたら、せめて一つ宛でも、其お初をお送りしたいと思つて居ります。さて果してなるや否や、今の處疑問です。南瓜は大丈夫お送り出來ると存じます。三度豆は漸くなり初めました。村報で又お忙しいでせうれ。

七月十二日朝、由清は背中でグウ〳〵です。　きみ

七月七日附お便り誠に有難う御座いました。お足の御治療かなりおよろしいそうで、結構で御座いました。皆樣からのお祝品、寫眞、簡易保險通帳等正に拜受いたしました、蘇峯會のお寫眞よくされましたれ。いたゞいておきます。平壌のお父さんよりも、渡道せらるゝ御豫定や、農作の狀況等について、お便りいたゞきました。おいしい漬物を、匂ひ丈かまれて、お送り下されたそうで、恐縮に存じます。去る八日山崎延吉先生の農道講演會が御座いましたので、二少年と共に、聽講に出掛けました。（午前九時より午後四時まで）流石は先生の御講演、誠に有益で啓發せらるゝ處多大でした。五日に例の實耕地に就いて、役場の當局と會見いたしましたつた。本日午後から市街に出て、莓とグリンピースをお送りいたします。それから蘇峯會誌もお返しいたします。昭和日本の進路、日本國史と國民の覺悟等有益に拜讀いたしました。昨日早速お母さんが、太田さんへ寫眞をもつて行かれたら大そう喜ばれたそうです。尙御詠歌の寫眞を、もう二枚丈御序の時燒いてお送り下さる樣お願いいたします。御健康を祈りつゝ　一郎

七月十二日

十七日夕附のお手紙いたゞきました。莓は皆腐つて駄目でした由殘念でした。餘りうれ過ぎてた爲めでしよう。昨日二郎からも同樣の報告がありました。之は大に研究を要すると話し合つて居る處です一兩日御不快の處、すつかり御快復安心いたしました。生命保險の方は然るべく御願ひいたします。未墾地が手にはいつたら、土地を整理して、八頭乃至十頭入れの、厩牛舍を建てる計畫をして居ります。去る十九日一番で、待望の鶴田樣が來莊せられました。月末小名濱に宗の講習會があり、講師接待役なので、それまでにかへらなければならぬと申されるが、それではあまり短いから、其方は御免蒙つてはと申して居る處です。

相變らず麥飯で山莊料理の御待遇來られた日も翌日も雨降りでしたが、例の部落をお供して訪問、昨日は意外に天氣がよかつたので、蕎麥、蕪菁の種蒔き、鶴田樣も勞働服で一日御手傳ひ下さいました今日も夜來の雨が上つたので、之からプラオかけをお目にかけ、午後から大根蒔きやら、蕪菁のころんだのを起すお手傳です。ありがたい事です。之で一旦新墾は打ち切り、八月下旬に今一ヶ處を起して内地へのお土産をこゝのへられる樣、御願ひいたします。去る十九日平壌のお父さん御來莊、大賑やかです。大體の模樣は、母上から御報告の樣ですから、私からは略します。愈々豫定の新墾地はあます處一番奥の一劃と相成りましたが、之は秋にやることゝし、秋播き菜種とライ麥でも播かうかと申して居る處です。蕪菁も頗る上出來否出來過ぎて、倒れたのが少し出來ましたので、之も此度お父さんの應援で、立ておこした樣な次第です。お母さん始め一同健在ですから御安心下さい。

明日はお父さんのお伴をして帶廣へ參る豫定です。銘々にいたゞいたお土産は別紙の通りです。　一郎

七月二十二日

拜啓　二十二日附お母さん宛お便り、まことに有難う御座いました東京の姉上もお目出たい段階の御苦勞御察し申します。又父上樣の各方面に對する御配慮、眞に感佩に堪へません。當方一同益々勇健に努力いたして居りますから、御安心下さい。平壌のお父さんからいろ〳〵御手傳ひ戴いた事は、前報告の通りであり、豫定通り帶廣へも御案内し、二十五日迄滯在（中略）翌二十六日に御歸途につかれました。御出發の朝佛前に御回向御讀經後、有難き御法話御感想の御發表あり、一同法悅の境に侵つた次第でした。　一郎

七月二十八日

二十二日附お手紙拝見いたしました。たき子の手紙も見まして安心いたしました。お母さんが御親切にお世話下さつて居るそうで、ほんたうにうれしく存じました。何事も修業一歩々々向上の段階と喜んで居ります。世界教育會議提案

◎清水山莊にて

お變りもなき事と存じ候　十九日早朝山莊着　一郎　赤間　英雄三名の出迎へをうけ　驛出發より降り出した豪雨を冒して山莊に安着元氣な皆樣の御顏を拜し　初孫由清を抱き申候　謂ゆる堅肉大聲を出して笑ひ喜ひ　可愛くなる許り候　午後は一郎君の案内で　赤間宅を訪れ候　御蔭樣にてあゝした立派な新しき家に住み得る幸福を思ひ候　二十日は終日雨　お母さんの御案内にて近隣に敬意を表し候　二十一日は好天氣　家内總出にて新墾地の蕎麥播種　夕食には母上共に赤間にて供養をうけ候

七月二十二日朝　鶴田廣隆

御豫定です。此頃の天候は雨續きで困りますが、例年より暖かいので助かつて居ります。山麓地帶はどうしても牛畜産でなければと痛切に感ぜられます。天候さへ順調ならば、今年の昨物なそは大したものだらうと思はれます。郵便屋さんが來たから、之で失禮いたします。書留が來たと申しますから御送金が届く事と存じます。　きみ

七月二十二日

拜復、十七日附お便り誠に有難う御座いました。莓はくされましたそうで、殘念な事をいたしました。來年は大に研究して見やうと存じます。各種保險、山莊資金等々、御出費多端、眞に相濟みません。珍らしく御頭痛で、お休みなされたそうで、いけませんでしたれ。然し間もなくなほられたそうで、安心いたしました。村報御編輯で例によつて御多忙の事と存じますどうぞ十分御健康に御注意下さる樣、御願ひいたします。去る十九日平壌のお父さん御來莊、大賑やかです。大體の模樣は、母上から御報告の樣ですから、私からは略します。愈々豫定の新墾地はあます處一番奥の一劃と相成りましたが、之は秋にやることゝし、秋播き菜種とライ麥でも播かうかと申して居る處です。蕪菁も頗る上出來否出來過ぎて、倒れたのが少し出來ましたので、之も此度お父さんの應援で、立ておこした樣な次第です。お母さん始め一同健在ですから御安心下さい。

明日はお父さんのお伴をして帶廣へ參る豫定です。銘々にいたゞいたお土産は別紙の通りです。　一郎

七月二十二日

拜啓　二十二日附お母さん宛お便り、まことに有難う御座いました東京の姉上もお目出たい段階の御苦勞御察し申します。又父上樣の各方面に對する御配慮、眞に感佩に堪へません。當方一同益々勇健に努力いたして居りますから、御安心下さい。平壌のお父さんからいろ〳〵御手傳ひ戴いた事は、前報告の通りであり、豫定通り帶廣へも御案内し、二十五日迄滯在（中略）翌二十六日に御歸途につかれました。御出發の朝佛前に御回向御讀經後、有難き御法話御感想の御發表あり、一同法悅の境に侵つた次第でした。　一郎

七月二十八日

二十二日附お手紙拝見いたしました。たき子の手紙も見まして安心いたしました。お母さんが御親切にお世話下さつて居るそうで、ほんたうにうれしく存じました。何事も修業一歩々々向上の段階と喜んで居ります。世界教育會議提案

其他で何かと御繁忙の事と存じます、村報拜見いたしました。昨日は土用でしたが、内地と變りありませんでした。今朝は雨が降つて居りますが、すぐに上りませう此分だと本年は豊作の方だらうと思はれます。鶴田さんに、一郎が道應から頂いた、行幸記念帖（一郎の書いた文章も戴つて居ります）お持歸りを願ひましたから、御覽の上は、お序の時にお返し置き下さる樣御願ひいたします。　きみ

七月二十八日

拜復、八月一日附御便り誠に有難う御座いました。鰹の味淋漬、秋刀魚の糖漬、ラツキヨウ、其上賞金と御送り下さつた由、一同感謝感激いたして居ります。昨日馬車を驅つて驛に參り、魚二樽丈け受取り、早速歸莊、蓋を開けました處、如何にもうまそうな切漬を、しつかりつまつた秋刀魚漬！大に食欲をそゝりました。昨夕食と、今朝食とに、切漬をいたゞきましたが、ほんとうにおいしう御座いました。お晝には秋刀魚を燒いていただかうと思つて居ります。小生大好物のラツキヨウは、到着を待つて一日も早く漬け込まうと手くすねひいて居ります。畑の方は、小麥刈取り終了、近日大麥刈りといふ段取りです。目下牛の尿溜を造る爲に、穴を掘つたり、バラスを選つたりして居ります。セメン十一袋は、農會より無償交附（所用量十四俵中）となり之は全部搬入いたしました。明日は型枠を運んで來て取り掛る豫定です。お盆前には、堆肥積み返へし、大麥小麥の脱穀迄、頑張りたいと思つて居ります。

八月一日には、清水全町で召集をうけた○○名の出發を歡送いたしました。實に莊觀でした。　一郎

八月七日

麥笛吟社

高木撫山

應召の兵よ安かれ豊の秋
子供等に流行る軍歌や磯山の秋
勤員を受けてる兵ど墓參り

昭和八年八月十五日（第三種郵便物認可）

内郷村報の

六大使命

一、政黨政派を超越して、力強實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實績を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を激勵し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て國民教導に當る。

本誌掲載の記事は大内一家の事業にして、其の責任は本誌に關する責任を負はぬものなり。

後で聞けば自動車が藤棚の踏切に差掛つた折も折、こゝの下り勾配を驀進して

のですからなア。されどお醫者さん方の診療、看護婦さん達のみどり、多くの人々の無限の御同情御心配の

昭和十二年九月十五日印刷納本
昭和十二年九月十五日發行
本誌定價一部金五錢　一ヶ年前金五十八錢
發行所　福島縣石城郡内郷村字宮濱二
編輯發行兼印刷人　内郷村村報社　右全名　内郷惠
福島縣石城郡平町一丁目二九
印刷所　平活版所